

Suntory World Research Center



「知の交流」を推進し、新たな価値創出に取り組むために

サントリーの研究開発

サントリーグループは、創業以来、品質第一を守り通すことを商売の基本とし、お客様の喜びと健康、幸せに貢献できる商品をお届けするために、商品開発、基盤技術・研究に力を入れてきました。そして、サントリーグループの“持続的な成長・発展のためには、研究開発部門の強化が不可欠”という思いから、研究開発活動の推進による“新たな価値の創造”に継続的に取り組んできました。

1919年、創業者・鳥井信治郎が、社長直属の研究組織である（製品）試験所を設立。化学者として情熱を注いだ二代目社長・佐治敬三は、終戦翌年の1946年、当時の民間企業には珍しい研究財団である（財）食品化学研究所を設立。1973年には、中央研究所（旧：研究センター）を開設し、生命科学に関する研究の充実に重点が置かれ、基礎研究、新製品開発、新事業へ進出するための研究・技術開発の拠点になりました。



サントリー ワールド リサーチセンター

分散していた拠点を集約

2015年5月、グループの基盤研究、技術開発の機能を集約した新しい研究開発拠点「サントリー ワールド リサーチセンター（SWR）」を設立しました。SWRは、世界的な研究機関が集積している「けいはんな学研都市」（京都府・精華町）に建設した研究開発拠点で、これまで3カ所に分散していたサントリーグループの拠点を集約したものです。サントリーウエルネス（株）健康科学センター、サントリービジネスエクスパート（株）安全性科学センター、サントリーグローバルイノベーションセンター（株）、公益財団法人サントリー生命科学財団 生物有機科学研究所が、「健康科学」「微生物科学」「植物科学」「水科学」「環境緑化」といった領域で世界最先端の研究を行い、国内外に活動を広げるサントリーグループの研究開発を牽引していきます。

サントリーグループの企業理念「人と自然と響きあう」を表現するため、“水”、“緑”、“土”をモチーフにした建築デザインと開放的でオープンなスペースを実現するとともに、自然エネルギーを活用した環境配慮型設備を導入。家具や建材には、「サントリー 天然水の森」の育林材[※]を有効活用しています。また、会社間、部門間の垣根を超えた共同研究や、外部機関や海外とのコラボレーションなどを促進しながら、新しい価値の創出に取り組んでいます。

※育林材：サントリーグループでは、持続可能な水と森を育むための活動から生まれた木材を「育林材」と呼んでいます



1F エントランス

400人の研究所員が集結し、「知の交流」が生まれる

SWRでは、1階のエントランスから4階までを開放的な吹き抜けでつなげ、SWR内外の交流が促されるような場を設けています。分野の異なる研究者同士がコミュニケーションを図りながら研究を行えるように「共用実験室」を設置。また、全従業員の固定席を廃止し、100%フリーアドレスのオフィス空間でセンター内の従業員同士の交流を促します。また、さまざまな研究者の方々をお迎えし、サントリーの基盤研究内容を知っていただくエリアや、交流や協業・イベントが開催できるエリアも設け、多様な人々との交流にも積極的に取り組んでいます。SWRの研究所員一人ひとりは、専門性を深化させるだけでなく、グループ内のみならず外部の大学や企業の皆様とさまざまな分野で「知の交流」を深めることで視野を広げ、共に未来価値を創造したいと考えています。



知の交流

VOICE

基礎研究こそサントリーのよりどころ

新たに設立した「サントリーワールドリサーチセンター (SWR)」は、基盤技術・研究を世界中から多様な「知の交流」を通じ、お客様に新たな感動体験をお届けできるように、新事業の芽、新商品の開発に取り組んでいます。幅広い分野での未来価値創造を目標に、7つの革新的な研究テーマに挑戦しています。

SWRで取り組んでいる7つの研究テーマ



サントリーグローバルイノベーションセンター(株) 代表取締役社長 平島隆行

その研究開発の分野で、基盤技術・研究を担っているのが、私たち「サントリーグローバルイノベーションセンター (SIC)」です。食品・酒類・健康食品・花など、既存事業の成長を支え、またサントリーグループの将来の新規事業を創造することを目指し、世界中のサントリーグループ会社、外部の研究機関・研究者等とのネットワークをつなぎ、基盤技術・研究を行っています。時代の変化を捉えて「個客」と「社会」の“潤い”に結びつく未来価値を創出し「既存事業成長」と「新事業創造」に貢献する研究特化会社として、大切にしている価値観が8つあります。

Future Consumer Insight / 市場・個客 Mutual Respect / チーム

Science and Technology Insight / 技術 Communication / 対話

Entrepreneur / 構想 Responsibility / 責任

Open Mind / 多様性 Yatte-Minahare / 挑戦

人々のライフスタイルや価値観は、IT技術関連の急速な変化もあり、地球規模で且つかつてないスピードで変化しつつあります。社会とお客様への洞察力を徹底的に養い、研究領域の深い専門性をもつプロフェッショナル集団として、未来へのシナリオ構想力を培わなければなりません。そして、専門分野・性別・年齢・国籍など多様な人材が集い、個性を活かしながら切磋琢磨し、異質な智が触発することによって新しいアイデアやイノベーションが生まれることを目指しています。

グローバルに多様性を極めるライフスタイルが出現する中、我々はサントリーに受け継がれる挑戦の精神“やってみなはれ”、あくなき探究心を発揮し、グループ成長を牽引する研究成果を創出することで、お客様に喜びと健康、幸せを提供できるように貢献してまいりたいと考えています。

VOICE

「青いバラをもっと青く」を追求し続けて

私はいま、青いバラをもっと青くするプロジェクトに携わっています。サントリーが世界で初めて開発した青いバラ「SUNTORY blue rose APPLAUSE」が発売された2009年に、私はサントリーに入社しました。実は、私がサントリーを志望したのは、学生の頃に、青いバラの開発者の一人であり、大学の先輩でもある田中良和さんの雑誌記事を読んだことがきっかけです。その当時はまだ青いバラは開発途中で、サントリーが当時最新技術であったバイオテクノロジーを駆使して、世界初の青いバラを咲かせることを目標に挑戦を続けているという内容の記事でした。私は花が好きで、新しい植物をつくる仕事につきたいと漠然と考えていたため、その記事を読んで感動し、さらに、記事に登場する「最新技術」「世界初」というキーワードや、サントリーの夢を追い続ける姿やあきらめずに挑戦を続ける姿をカッコいいと思ったことを今でも覚えています。

青いバラの花色はまだ淡い青紫色です。私は、誰から見ても青色であるバラを咲かすことを目標に、日々研究に取り組んでいます。バラを国花としているイギリスの方々にも認めていただけるようなロイヤルブルーを目指す青色の1つです。

青いバラが咲くと信じて研究に取り組む毎日ですが、思うように結果が出ないことはもちろんあります。しかし、“やってみなはれ”精神のもと、「絶対に諦めず、最後までやり遂げる」を信条に日々邁進してまいります。

これからは、基盤研究、技術開発の拠点として新設されたこのSWRで、社内外に関わらず多くの研究者の方々との「知の交流」を通じて私自身の研究者としての視野を広げ、もっと青いバラの開発はもちろん、その他にもお客様に“幸せ”“驚き”“感動”をお伝えできるようにとどんどん挑戦していきたいと思っています。植物には、未知の力がまだ秘められているはずです。研究を通して、その力を引き出し、新商品の開発につなげていけたらと思います。美しい花を見て、人は心を動かされます。青いバラが開発されたときも、お客様から、私たち研究者が励まされるような温かい声をたくさんいただきました。これからも、常にお客様を念頭におきながら全力で仕事に取り組んでいきたいと思っています。



サントリーグローバル
イノベーションセンター（株）
興津奈央子

未知への扉を開き、持続可能な世界の再創造に貢献

トクホ飲料「伊右衛門 特茶」や「黒烏龍茶」、サプリメントの「セサミン」、青いバラ「アプローズ」。これらはいずれも、サントリーが長年続けてきたポリフェノールサイエンスから生まれた商品です。これら新しい価値をもった商品には、商品として世に出る前の研究や技術研究が欠かせません。サントリー ワールド リサーチセンターでは、世界中からの多様な「知」を招き、交流していくことで、お客様に新たな感動体験をお届けできるような、新しい事業の芽を発掘し新商品を創造していきます。すべての探究・創造の大前提に「安全・安心」を位置づけた上で、未知への扉を開く革新的なリサーチによって、持続可能な世界の再創造に貢献します。



社内外の研究者がオープンに交流できる多目的エリア